本を選ぶ

高校図書館版

NO.10　1990年(平成2年)11月10日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL 03-235-6168

ぶっく・えんど

夏休みの宿題

暑い夏が終わった。台風がくるたびにだんだん涼しくなってくるようだ。図書館も夏の喧騒がおさまり、しだいに落ちつきをとりもどしつつある。夏に図書館が混雑するのは例年のことだが、今年はいつもとちがった現象も見られた。お盆の時期はすくはずなのに、今年は目立って利用者が減るということがなかったのだ。お盆以外にも休暇がとりやすくなり、交通機関が混雑するお盆をさけて旅行や帰省をするようになった、という原因が推則できるが、定かではない。それから、夏休み開始直後から、宿題を片付ける小学生たちでレファレンス室がにぎわっていたこと。塾に専念したいがために、学校の宿題を早めに終わらせたかったのだと思う。

相も変わらず見られたのは、学習室の席待ちの行列である。ふだんは40席だが、7月15日から9月16日までは、となりあった集会室も学習室にして、倍の80席で利用してもらう。それでも夏はほとんど満席の状態が続く。あぶれた受験生たちはレファレンス室や開架書庫の社会人席に、はいりこんでゆく。そこは自習のための席ではないと知りながら、平気で使っている。見回りを強化したが、不正利用はあとを絶たない。

公共図書館は一般市民の利用が優先されるにもかかわらず、夏休み中は高校生や受験生に閲覧室が占領されてしまう。机に持物を置いたままで外出したり、おしゃべりしたり、ルール違反もよく見られる。自校の図書室を利用してほしい。これは投書の要約である。2人の社会人からの同趣旨の投書が新聞に掲載されていた（7月23日付朝日新聞・8月3日付東京新聞）。実はこの投書をコピーして不正利用者たちに配り、理解を求めることにした。高校の図書室にも個々の事情があるだろうし、高校生だから自分の高校の図書室に行けと言われても、すぐに利用できる態勢があるとは思わない。しかし、一般の利用者からこのような声があることも知っていただきたいと思う。

図書館は常にその時代の社会環境を反映している。学習室が込むのも、受験競争や住宅事情が関与しているのだから、早急な解決が望める問題ではない。公共図書館の機能は資料提供であり、席貸しではないから、学習室をなくせばいいという極論をとることもできない。むしろ受験競争の渦中にある中学・高校生に対して何ができるのか、考えなければならない。

学習室があるから、中高生たちは図書室にきて、ついでに本も借りてゆくのかもしれない。小学生まではよく本を借りに来ても、中学になれば塾通いが忙しくて、しだいに読書離れがすすむ。図書館の中で学習室以外に彼らの居場所がはたしてあるのかと思う。ヤング・アダルト・コーナーを設けている図書館もあるが、場所の名前はどうあれ、受験勉強に没頭せざるをえないがゆえに、なおさら図書館に来させない手はない。そこは社会や自然、芸術など多様な世界を伝えることができる場なのだから。

学習室以外で高校生をひきつけられる場所――期限はないが、難しい夏休みの宿題である。

（加藤　竜治：浦安市立中央図書館）

『専任司書教諭』を学校図書館に!!

本間ますみ

学校図書館に望むこと

高校の学校図書館にいて、毎日生徒達と過ごしながらつくづくと、子供達には本を読む、調べる楽しむなどの、図書館を上手に活用する生活習慣を小学生の時代に身に付けてほしいものだと思います。子供達には毎日いつでも学校図書館にいけば必ず学ぶものがあり、感動があり発見があり、得るものがある、そういった日常の学校生活をしてほしいと思います。

学校図書館には、子供達に本の世界の楽しさを更に拡げてくれる人、来る子供達に語りかけ問いかける人、答える人、子供達の個性や能力を把握する人、子供達が求めているものを探り与え、適確な助言をし、学習や調査に必要な資料を提供する人、情報を分析し考察する人、日常生活の中にある興味や疑問を放置せずいっしょに探求し、示唆する人、・・・学校教育の中に学校図書館を位置付け活動する、そういったことのできる立場の「人」が必要です。

子供達が毎日行くことのできる、最も身近な学校図書館でそんな「図書館の人」に出会ってほしいと思います。

学校図書館の「人」は、学校教育を考え学校全体の様子を把握し、学校図書館教育を学校の中で確立しなければなりません。そして日常的に子供達の生活や行動そのものを見守り、教育的に助言や指導ができる姿勢が要求されます。それに応えるために身分的な保障が必要であり、学校の中で位置付けられるために職員制度が必要です。

『専任司書教諭』制度化運動

私は学校図書館職員として、長い間学校図書館法（以下、学図法と略す）改正の必要性を訴え続けてきました。学校図書館の充実を考え発展を願う様々な人達が学校図書館の実態の問題をあげ、38年も前に制定されたままの現行学図法の何が問題か見直し、これをどう改正すれば実際に学校図書館が子供達に最も良い形で活かされてくるか話し合いを重ねてきています。そしてようやく学校図書館には専任の職員が制度化されることが最も重要であるという結論に達し『専任司書教諭』制度化運動が広がっています。

これは具体的には、全国の小・中・高校・障害児学校の全ての学校図書館に職員を配置することを要求するものです。その学校図書館職員としては専任で教育職の「専任司書教諭」が必要であり、その確保のために学図法、定数法などの関連する法改正をも含めて職員の制度化を要求するものです。現在、全国的な要請行動となっています。

学図法改正による「専任司書教諭」の制度化を実現させることが、いかに教育の重要課題であるか現場で切実であるかということに、学校図書館職員も教員も親も、社会一般も気付くことが先決です。

やむをえず学校図書館に置かれた人

今年、東京都日野市で市立小・中学校の全ての学校図書館に「人」が置かれました。その全員が午前10時から午後４時まで、時給600円のパートタイマーということです。

せっかく学校図書館に職員が必要なことが理解されその配置に取り組んだ日野市ですが、市町村自治体の行政レベルでは、正規の職員を置く予算が見込めないという理由でこうした職員の配置となってしまったようです。充実した学校図書館教育を受けるべき子供達も、より豊かにより深い教育を考えようとする職員も、行政のなかではきちんと保障されず、これでは真剣に学校図書館教育を考え尽力しようとする人がいても正規の職員にはなれません。生計の立つ賃金の保障もありません。

一昨年、岡山県岡山市でも自治体に任された学校図書館職員が配置されました。全校に配置された全員が臨時で嘱託員です。

この措置も人が置かれたことのみで、その職員の賃金・身分を考えると評価はできないといえます。現在、これ以外にも、各県に配置されている学校図書館職員の中には臨時職員・嘱託職員も多く、現在、正規の職員となっている学校司書も、配置された当初は身分保障がなく学校の中で図書館職員としての位置付けもなかった人も多かったのです。学校図書館に職員が配置されて、開館す

ることによって子供達が毎日喜んでくれるようになっても、活気ある学校図書館の創造に意欲的で、充実した子供達との学校生活があっても、その「人」はいつやめさせられるかわからないという状況で仕事をしていたのです。

日野市、岡山市の嘱託職員の全校配置も、それは今現在「人」のいない学校図書館の実態を憂える余りの、その時かぎりのやむをえない措置であることに変わりありません。

日野市の小学校で、子供達の希望に応えて夏休みに開館し、宿題の手伝いをしたり、研究発表の資料を、汗かきながら協力したパートの人も夏休みの８月には勤務契約がありません。子供達の要求に応えたのは全て何の補償もないボランティア精神だけです。本来ならばこういう活動をこそ積極的に教育の中に位置付けなければならないはずです。毎日の放課後や土曜日の開館などもパートの人にとっては勤務時間外のボランティアになってしまうのです。子供達にとっても不十分です。

このような、働き続けるための幾多の障害が、予想通りの結果として報告されています。子供達の教育に携わる上でその熱心な学校図書館職員は、正規職員であるべきことは言うまでもなく、専任で教育職員でなければ、学校の中にいても矛盾した立場に置かれてしまうという感想も聞いています。

こうした状況が生ぜざるを得ないのは、国の基準に、きちんとした学校図書館職員の制度が確立していないからであり、それを求める私達のような運動は国に対して制度確立を求める運動へと発展する展望をもたなければなりません。

学校図書館に人のいない実態

現在、全国の殆どの小・中・障害児学校には学校図書館職員がいません。そのため、本の好きな子供でも週に一度程度の「図書」の時間にクラスごとに図書館に連れて行ってもらい、本に触れ、探したり借りたりすることがせいぜいできるぐらいです。本はたくさんありスペースも、椅子や机も十分ありながら、図書館の本は整理されていないし、しかも、カード利用などで検索する利用技術や自分で自由に読む読書技術は誰にも教えてもらえません。現代の情報化社会では、子供はよく本を読み、自ら考え、図書館を上手に活用して自主的に学ぶ習慣を得て、創造力豊かに健全に育つことが大切になっています。しかし、日常的に知りたいことを本で調べ、読みたいときに読めるという本来あるべき、本に親しむ絶好の機会は学校図書館では与えられていません。

学校図書館に人がいても不十分な実態

現在、多くの学校に図書館職員として「学校司書」が置かれている高校ではどうでしょうか。

この学校司書は学校の中では図書館教育の全般を任されています。

高校にきて初めて、解放された学校図書館の意義に触れる機会を得た生徒達は、さまざまの興味と要求を示します。趣味やクラブ活動に関する知識、学習や調査の参考資料、紀行や小説にある未知の世界など、多種多様の情報に感動します。学校司書は生徒ひとりひとりのこうした感動をさらに大きく広げるよう働きかけていかなければなりません。また、小・中学校で図書館教育を受けてこなかった子供達は高校生になったときには、既に図書に関心がない生徒も数多く、学校司書が個別に関わりを持ってしても、高校生に対する利用指導・読書指導の学校図書館教育が非常に困難になっていることも実状です。

また、高校で学校司書は、教育現場では当然必要なさまざまな教育活動に携わっていますが、この学校司書は殆どの場合が行政職員になっています。行政職員の学校司書は身分上の幾多の制限を受けてその自由な教育活動を阻止されているのが現状です。

たとえば、生徒の図書委員会活動は他の委員会活動と同じ生徒会の先生が見ることになっており、実際に生徒と活動を共にする学校司書は参画できないことになっています。また、生徒達の校外行事の引率ができないとか、いつも図書館に来ている生徒についての問題を話し合うような職員会議に、学校司書がその生徒の実態を把握していることがわかっていても、学校司書は発言もできない、出席さえできないこともあります。そしてそういった不合理な学校司書に対する身分上の制限は、

学校司書自身の日常業務に著しい負担になるだけでなく、生徒達にとっても、共に学校教育に関わる教職員にとっても、非常に大きなマイナスになっています。

そういった数々の行政職員の学校司書の実状を見ても、学校図書館職員は幅広い教育活動を保障される教育職員である必要があります。学校図書館が子供達に十分活用されるというあるべき姿勢をもって学校教育の中に位置付き、その上で幅広い教育活動を保障される職員が学校図書館にいなければ学校教育の中に学校図書館教育が位置付かないのです。学校教育の中に学校図書館教育が位置付くためにはその職員と他の教諭とが同等の教育職の位置にある教育職２級にあり、定数法に規定した教育職員を配置するため、法改正をも含めた「専任司書教諭」制度の確立を訴えているのです。

学図法改正の考え方

現在、全国の殆どの学校図書館に「専任司書教諭」が置かれていないのは、現行の学図法にそれを義務付けていないからです。

現行の学図法では第５条で『司書教諭を置かなければならない』としていますが、その司書教諭の規定は『教科教諭をもって充てる』となっています。つまり、現行学図法の司書教諭は定数法上の保障がなく現在採用されている教員の中から兼任「充て職」で、その学校ごとに図書館の担当を毎年決めて報告し、教育委員会が発令する、いわば形式だけの司書教諭が法的に規定されているに過ぎません。それでは司書教諭という係の教員が学校にいることになっても、その教員には本来の仕事である教科の授業があり担任があり、とても学校図書館を毎日、開館し、子供達の話を聞き要求に応え、蔵書の選択や整理をするなどという図書館職員の最低限の仕事さえ、できる余裕はありません。

学校図書館教育は専任・専門の教員によって行なわれるものであり、片手間にできるものではありません。そういう現行学図法にある「充て職」の司書教諭は学校図書館の現場では、誰も必要としてこなかったのです。しかも現行学図法は附則で『当分の間、司書教諭を置かないことができる』としたため、充て職の司書教諭の配置でさえ殆どの自治体、学校現場で置き去りにされてきてしまったのです。また現行学図法のこの附則を撤廃すれば専任の学校図書館職員の配置が望めるという意見がありますが、この附則が専任職員の配置を妨げているのではなく、学図法の職員規定そのものが専任の配置を阻害しています。現行学図法では、専任司書教諭は制度として存在していないのです。

しかし、学校教育法では学校図書館を全校の基本的施設として定めており、教職員も親も学校図書館教育が子供達の健全な育成から欠かせないとして、とにもかくにも今すぐ学校図書館には専任でいてくれる「人」が必要であることを訴え続けたために、制度が不備な中でＰＴＡ費など私費から予算を出して全国的に人が置かれていきました。それが私達学校司書です。

学校司書は、職務・身分の確立を日常的に運動化し学図法改正の必要性を訴え、進めているのです。ＰＴＡ費雇用などから公費採用形態への身分改善は学校図書館教育に尽力した学校司書が、長期的な展望にたって仕事をすることを希望し、要求し続けた結果です。

ただし学校司書の配置は主に高校でようやく実現したに過ぎません。小・中学校ではいまなおいくつかの地方自治体で配置されたに過ぎず、身分は臨時・嘱託・パート・兼務などの職員が多いのです。また、高校に配置されている学校司書が学校教育の中に求められて存在し専任で活躍していながら、生徒達にとってはあくまでも不十分な学校図書館活動しか許されていない、教育的な立場に立つことの保障のない実状についても前述のとおりです。

学校図書館に「人」を求めることは同時に「専任司書教諭制度」の確立に向けた展望と指針、運動の展開が必要だと言えます。学校図書館を生かすため子供達を育てるため、働く人が生き生きと学校図書館教育に関わるように「専任司書教諭制度」の確立は急がれなければなりません。

（ほんま ますみ：東京都立化学工業高校）

棚の自然書

野澤久昭



『棚の自然書』No.01

「自然書」

'87年、春、自然科学書を出版している数社の営業、販売促進担当者と雑談をしているとき、一つのことが話題になった。

「人文科学書を人文書と呼ぶように自然科学書も自然書と呼んだほうが自然ではないか。」

「科学」がつくことで専門書のイメージが強くなり一般の読者は手をひっこめてしまう。身近かに感じてもらうには「科学」をはずそう。

近年増えている自然への入門書や教養書また人文書ともオーバーラップする学際的内容の書籍をもまとめて展示してもらえる棚作りができないか考えることにした。

ちょうど、博物誌・自然誌が静かなブームになりつつあった。テレビ等でもさかんに動物の生態を紹介した番組や、各地の自然を丹念に描いたドキュメンタリーが放送されて、動植物をふくめた自然を知りたいという人々が増えつつあった。

自然書と人文書が一緒に並べられるような棚、テーマフェアーを考え書店への働き掛けをすることにした。

「自然の会」

6月、自然書を出版している10社（八坂、平凡、早川、平河、草思、築地、ネイチャー・ブックス、東海大、思索、どうぶつ）の営業担当者が集まり、ささやかな会を発足させた。

書店担当者と情報交換をしながら、10社の書籍を中心にブックフェアーを企画し実行していく中で今まで棚のなかで死んでいた書籍や忘れられていた書籍を改めて見直すことやロングセラーを見つめ直すことから始めた。

書店が書籍を販売していく中で気を付けなければいけないことの中に販売できなかった書籍の返品の問題がある。たぶん、読者は「本は簡単に返品がきく。委託じゃないか」と考えるだろうが、新刊期間（通常6か月）の間は比較的簡単でも1年以上前の発行書籍の場合は、仕入れの時、出版社の了解がないと返品不能になったりする。1点1点をすべて出版社の了解をとりながらの作業は大変なのだ。

「自然の会」はできるだけ書店の負担を軽くし気持ち良くフェアーが実施できるように会員社の本の受注を一括することで協力することにした。

この4年間、北海道・札幌から大阪・梅田の比較的大型の書店でフェアーを実施することが出来た。

その中で、以前から読まれ続けている**ソロモンの指輪**（早川書房）**人・犬に会う**（至誠堂）**攻撃**（みすず書房）**鼻行類**（思索社）**裸のサル**（河出書房）などのほか**校庭の雑草**（農村教育協会）**ネイチャーゲーム**（柏書房）**生きものの建築学**（平凡社）**森なしでは生きられない**（朔風社）**名前とゆわれ野の草花図鑑**（偕成社）**オオカミと人間**（草思社）**地上から消えた動物**（早川書房）**恐竜はどう暮らしていたか**（どうぶつ社）**ハーブの楽しみ**（八坂書房）**日本海のイカ**（情報センター）等のロングセラーを見つけることができた。

今、「地球環境」「自然保護」が話題になり関連書が多数発行されているが、経済がらみの「自然保護」ではなく本当は私達人間が自然に保護されていること、人間は自然界の中の一員ということ、を人間以外の生き物を知ることで考えていけたらと思う。

「棚の自然書」

約3年半の活動で見つけた多くの書籍情報をより多くの書店担当者に知ってもらい、常設の棚の中でそれらの情報を活かしてもらいたくＰＲ紙を作ることにした。

自然書をより一般書のイメージで分類したり、テーマ別に分類したリストを定期的に送ることで棚を活性かさせ、それらの情報と一緒に書籍をも流通させることが出来れば既刊書を読者に直接見てもらえる機会も増やすことが出来ると思う。

日々、発行される新刊もすぐ棚から消えていく現在の状況から少しずつでもロングセラーが生まれいつまでも読み続かれる自然書が生まれればありがたい。

（のざわ ひさあき：どうぶつ社）

よはくに

■このところ学校図書館についてのさまざまな動き、発言が活発化している。やっと、という感もあるが、とにかく歓迎したい。かねてから議論がなかったわけではないだろうが、互いの立場だけに固執して実りがなかった。それに対して、最近の一連の流れをみると、依然として教師の参加が少ないものの、学校の現場で働く比較的若いひとたちや文庫などに関わるひとたち、そして公立図書館に働くひとたちなど、広がりがみられる。

■この新しい芽を育てるためにも、是非、意見や立場の違いを結論としないでいただきたい。それはひとつの出発点にすぎないのだから。いろんなひとの考え方に耳を貸そう。小誌も誌面を提供することでいささかお役に立ちたい。

■もうひとつの出発点、学校とは何だろうか、という問いも常に忘れないでいただきたい。少なくとも＜教育現場＞などという発想では、学校図書館は子どもたちのもとに永遠に帰ってはこない。子どもたちが一日の大半を過す学校、そして子どもたちが学ぶ場としての学校。主役は教師や司書ではない。この自明のことが確認されたとき、図書館だけではなく学校全体が変るはずだ。（お）

DMかたろぐ

マコーレイ
道具と機械の本
てこからコンピューターまで
歌崎秀史訳
11月8日発売！
菊倍判・上製カバー・384頁
定価6000円(税込)
少年少女から大人まで
みんなでたのしめる
イラストレーションによる
道具と機械のユニークなガイドブック
岩波書店／〒101-02 東京・千代田・一ツ橋2-5-5

全面改訂第2版新発売！
ライトハウス英和辞典
〈並装〉
発売記念〈平成3年5月31日まで〉 B6小判／1744頁
特別定価2400円(税込) 竹林 滋
定価 2500円(税込) 小島義郎
新登場-2色刷 定価2600円(税込) 共編

ライトハウス和英辞典
〈並装〉
発売記念〈平成3年5月31日まで〉 B6小判／1824頁
特別定価2400円(税込) 小島義郎
定価 2500円(税込) 竹林 滋
革装定価 3800円(税込) 共編
研究社 〒102 東京都千代田区富士見2－11－3
☎03(288)7777販売

身近な現象の物理と化学
鈴木智恵子著 理科がおもしろくすきになる本。数式を使わずに、280余枚の図版で、物理や化学の基礎的な概念をわかりやすく説明する。何気なく見すごしていた身近な現象を、実験→解説→例から明快に説く。
2678円

生化学入門
村上枝彦著 化学史と生物学の立場からまとめた入門用テキスト。イラスト多数。 1648円

教養のための天文・宇宙データブック
比田井昌英・寿岳潤・高瀬文志郎編著 暦、太陽系、銀河宇宙、そしてそれらを観測する手段など、最新のデータ集。
1545円

日本産蝶類幼虫・成虫図鑑
Ⅰ タテハチョウ科
手代木求著 卵から成虫まで生活史のすべてを網羅。
●内容見本呈 18540円

東海大学出版会 東京都新宿区新宿3-27-4 東海ビル ☎(03) 356-1541


DBS
どうぶつ社 東京都杉並区阿佐ケ谷北4-24-3-801
☎03(339)7123 FAX03(339)0747

個人全集の一大金字塔！

ロマン・ロラン全集

〔全43巻〕

「余をもっとも強く感激せしめたる書」と芥川竜之介を唸らせた『ジャン・クリストフ』，丸山真男氏が「人間性の讃歌」と賞賛した『ベートーヴェンの生涯』他，数々の感動を与えてきたロランのすべて．

❶－❹ジャン・クリストフ❺コラ・ブルニョン他❻－❽魅せられたる魂❾－⓭戯曲Ⅰ－Ⅴ⓮マハトマ・ガンジー他⓯ラーマクリシュナの生涯他⓰ペギー⓱自伝⓲⓳エセーⅠⅡ⓴－㉕ベートーヴェン・偉大な創造の時期ほか芸術研究Ⅰ－Ⅵ㉖－㉛戦時の日記ほか日記Ⅰ－Ⅵ㉜－㊷タゴール，ガンジー往復書簡ほか書簡Ⅰ－Ⅺ㊸雑纂・評伝

〔四六判上製函入／月報付／平均550頁／揃価166,345円〕

東京文京本郷3　みすず書房　☎03(814)0131

ミネルヴァ書房

野生チンパンジーの世界

The Chimpanzees of Gombe Pattern of Behavior, 1986

ジェーン　グドール著
杉山幸丸／松沢哲郎　監訳

ゴンベストリームに入って30年，野生チンパンジーの生と死と社会を描きつくした名著!!

グドール博士は，『森の隣人』をはじめ，多くの報告で人々のチンパンジー（霊長類）への興味をかきたててきた。本書は三五年にわたるフィールド観察・研究の集大成。図表一二三，写真三五二を付し今世紀最大の文化的財産の翻訳が完成。氏は本年度京都賞の受賞者。一二〇〇〇円

●目次●　1研究の黎明期／2チンパンジーの心／3ゴンベでの研究／4紳士録／5人口動態／6コミュニケーション／7特異な社会／8個体関係／9遊動のパターン／10採食／11狩猟／12攻撃性／13友好的行動／14グルーミング／15優劣関係／16性行動／17なわばり制／18物体の操作／19社会的意識

骨食い太郎（松下かつとし）笑顔を絶やさぬ闘病記。

〒607　京都市山科区日ノ岡　☎075(581)0296　価格は税込です。

リアルな写真が創造力を刺激する。

⑫恐竜　ついに刊行！

ビジュアル博物館　全12巻

大英自然史博物館監修
◎A4判変型（二八〇×二一六㎜）
◎上製・各巻六四頁（オールカラー）
◎定価各三五〇〇円（税込）

各巻内容

好評既刊①鳥類②岩石と鉱物③骨格④武器と甲冑⑤樹木⑥池と川の動植物⑦蝶と蛾⑧貝と甲殻⑨哺乳類⑩海辺の動植物⑪植物⑫恐竜

同朋舎　本社　京都市下京区中堂寺鍵田町2
支社　東京都千代田区神田駿河台2-11-1
フリーダイヤル0120-304081

特装版　シリーズ　絵で見るスポーツ　全18巻

■第1期■1990年11月刊行



■B5判上製■平均208頁
■第1期（全9巻）
セット定価25,200円
■第2期（全9巻）
セット定価25,200円
●カラー・イラストを駆使して解説する、最新スポーツ技術！
対象：初級～中級者

BASEBALL MAGAZINE SHA
株式会社ベースボール・マガジン社
〒101東京都千代田区三崎町3-10-10☎03(238)0181

THE PERFECT GUIDE '91

大学裏オモテデータBOOK

首都圏、地方、海外125大学の学部学科案内や偏差値の一切ない異色の大学ガイド。現役学生のナマの声を多数収録し、既存のガイドでは知ることのできないカレッジライフの様子が手にとるようにわかる。　1400円

●世界各国に配信された英文記事に和訳を付した対訳本

東京発Japan Today　朝日新聞国際配信部　著
四六判並製／1236円

評伝社　〒162　東京都新宿区早稲田町5-4　☎03(232)3425

図書館必備

定評ある朝倉書店の

レファレンスブックスのご案内

事典・辞典
図譜・ハンドブック

最新刊好評発売中
有機化学用語事典
A5判　456頁　定価7004円

朝倉書店　東京都新宿区新小川町6-29
〒162　☎03－260－0141

博物館のレトリック

ドナルド・ホーン／遠藤利国訳／ヨーロッパ諸国家、ソ連、東欧諸国は、博物館・記念碑の陳列を通して、訪れる観光客に何を吹き込もうとしているのか？　博物館のうらを読みそのレトリックを克明に説き明かした異色の文明批評。　**2300円(税別)**

●内容見本同送●

荒俣宏「ファンタスティック12」

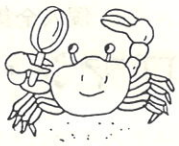
リブロポート

〒171 東京都豊島区南池袋2-23-2(電)03-983-6191

町なかで自然に生きる—

自然術

新シリーズ刊行開始!



①ミジンコの都合

日高敏隆・坂田明　魚も犬もネコもいる——二人の奇才が語りあう、生きものとつきあうヨロコビ。**1600円**

②蝶がいっぱい

腰本文子　七つ道具や探し方から蝶の来る庭づくりまで、庭先から始まる「虫愛づる姫君」の大冒険！**1600円**

＊価格は消費税込みです。

晶文社　東京都千代田区外神田2-1-12　電話(255)4501

限りなく広がる知識の世界

創業100年—辞典350点突破！

記念出版

市町村名変遷辞典　好評発売中

地名情報資料室編　市町村制が施行されてから百年を経た。本書はその合併・編入・分離・分割の跡を克明に追い、激しい変遷過程がひと目でわかるように解説した。　菊判　**15000円**

現代女性文学辞典　最新刊

村松定孝・渡辺澄子編　樋口一葉から吉本ばななまで女性文学者430人を収め、その履歴と文学的位置づけを解説した初の女性文学の手引き書。　**2900円**

東京堂出版　〒101 東京都千代田区神田錦町3-7　☎03(233)3741 最新辞典目録進呈

ラフカディオ・ハーンの来日から、ちょうど100年

一世紀の時空を超えて、今よみがえる！

ヘルンと私

●随筆集

小泉時（八雲令孫）著

小泉八雲の孫である著者が、その幼児期に暮らした晩年の祖母セツや、父・一雄、叔父の巖、清、叔母の寿々子らをはじめ、八雲ゆかりの人びとにまつわる思い出を、親族ならではの珍しいエピソードをまじえながら、愛情あふれる筆致で綴る。未発表の写真多数収録。

A5判変型上製カバー装　■定価2800円

好評発売中

小泉八雲来日百年記念出版

●他にも、ハーン関係書をカタログにて、ご案内いたします。

文化の架け橋をめざす　**株式会社 恒文社**

〒101東京都千代田区三崎町3-10-10☎03(238)0181

高校で学ぶ「おもしろさ」の発見

高校で何を学ぶか

〈高校生には〉なぜ学ぶかが見えてくる／苦手な教科も好きになる　〈高校の先生には〉授業づくりの参考になる／高校生にすすめる副読本として最適

1 国語と私たち
2 理科と私たち
3 数学と私たち
4 外国語と私たち
5 社会科と私たち
6 労働・職業・生活の学習

全6巻完結！

46判・各1340円

高校生の本　全5冊

高校生が直面しているさまざまな課題を、高校生とともに考えます。46判・価不同／揃6194円

東京文京本郷2-11 **大月書店**　電話03(813)4651

新たな視点でとらえた詩人リルケの全貌！

リルケ全集　全10巻

第二回配本
第6巻 **散文Ⅰ**

●10月下旬刊
●予価9500円

〈収録作品〉神さまの話〈金子正昭訳〉／足の悪いエーヴァルトの手紙〈金子正昭訳〉／人生に沿って〈伊藤行雄訳〉／最後の人びと〈伊藤行雄訳〉／その他の散文・スケッチ〈伊藤行雄訳〉

●続刊〈毎月配本〉＝①詩集Ⅰ ③詩集Ⅲ ④詩集Ⅳ ⑤詩集Ⅴ ⑦散文Ⅱ ⑧評論 ⑨日記 ⑩伝記 ●既刊＝②詩集Ⅱ●8800円

■造本＝A5判上製函入／600頁／9ポ通し組み／月報つき

刊行中！

河出書房新社
東京都渋谷区千駄ヶ谷2